



花と緑のネットワークとよなか

「とよっぴー農園」でサツマイモを栽培 今年も1,100株を育てます

緑と食品のリサイクルプラザ開設以来、併設する農園で「とよっぴー」を使って季節の野菜を育ててきました。中でもメインとして「サツマイモ」の植え付けを行い、子育て支援や食育スタディなど、多くの市民や子ども達に参加していただく収穫行事を行ってきたところです。とくに、毎年10月開催してきた「とよっぴー祭り」（昨年は「とよっぴーフェスタ」）ではサツマイモ栽培を最大イベントとして位置づけ、家族を中心に300組の方に一斉収穫をしていただく人気のある行事となっています。



この間、日々農園での作物栽培を一手に担っていただいていた柳澤農園長が第1線を退くこととなり、作物栽培の事業継続をどうするか内部で真剣な議論をしてきた結果、「とよっぴー農園」食育推進プログラムの一環として継続することとなり、5月12日～26日の各金曜日を通じ1,100株のサツマイモの

苗を無事植えました。ちょうど、5月19日には豊中市立原田こども園の園児と保育士さん達が植え付けに参加し、秋には収穫する予定です。

野菜も一緒ですが、サツマイモも植え付けてしばらく水やりが欠かせません。今までは遠くからホースを引っ張って水やりを行っていました。しかし、



天気が続く夏に水不足になると生育に影響を及ぼします。今年は市の方で畑の近くに下水の高度処理

水を利用した水栓装置を整えていただき、水やりの苦労も少し改善されました。また、柳澤農園長に代わる新しいスタッフが栽培に挑戦することになり、長年の活動を継続できることとなりました。

活動を継続することはどんな組織でも大変です。とりわけ作物作りは一過性ではありません。土づくりから収穫まで責任を負います。育つかどうか不安がつきまとうものです。失敗したからでは済まないのも事実です。サツマイモ栽培を継続することができ、組織的には安堵していますが、無事収穫にこぎつけるか、腕の見せ所の一方で不安もよぎる新スタッフです。
(中村義世)

「とよっぴー」が繋ぐ野菜のご縁

豊中市が学校給食の残渣を堆肥化して「とよっぴー」の製造に取り組み出した頃、とよっぴーの活用と普及啓発を担っていた花と緑のネットワークでは、とよっぴーを市民に頒布するだけではなく、豊中市内の農家の野菜づくりに活用してもらうことを始めました。そして、せっかくできた野菜を豊中の人たちに食べてもらいたいと野菜の販売を始めたのが14年前のことです。現在は環境交流センター、くらしかん、さわ病院でそれぞれ月に1回ずつ、毎月3回の野菜販売を行っています。野菜を出してくださる農園は今では7農園に増え、多くの市民が買いに来られるようになりました。

また、「ここの野菜はおいしい」と毎回楽しみに買いに来られる常連のお客さんも増えました。「とよっぴー」を入れた有機質の土で育て、農薬もでき

る限り使わずに手間暇をかけるなど、農家の方の愛情たっぷりに育てられた野菜だからこそ、とてもおいしいと評判になるのです。「野菜ってこんなにおいしかったんだ！」

と、少しでも多くの方に感じてもらいたいと、野菜販売担当のメンバーが一生命取り組んでいます。そして、農家の方とご縁はもちろん、野菜を買いに来てくださいる方々など、野菜を通してできた多くの方とのご縁を、これからも大切にしていきたいと思ひます。
(茨木かづ子)

